

長寿に感謝、別府で「乾杯！」

汕泗会（大7回）

汕泗会とは、昭和30年入学、又は昭和34年卒業（主体は大学7回生）の同期会の名称です。昨年の10月26日～27日に別府のホテル白菊にて傘寿記念同窓会を開催した。前回50周年大会



別府ホテル白菊で開いた傘寿記念大会（昨年10月）

から7年ぶりの全国大会であった。80才は人生終盤を迎える大きな節目であり、亡くなられた方や体調を壊した人などの情報が多く寄せられていた中で、何人集まれるかが懸念されたが、36名の出席で盛大に行われた。オープニングは、いつもながら

大分汕泗会苦心作の映像が当時流行のメロデーとともに次々とスクリーンに映し出された。とくに今回は、各ゼミナールと当時のサークル活動の紹介がメインで、担当教授を囲んでのゼミ生の若々しい姿等が映し出されると57年前の懐かしい思い出と記憶が、みんなの脳裏に甦った。

椋野大分汕泗会代表のあいさつの後、村尾君の司会で進行し、それぞれの近況や昔話、健康のこ

となど話はつきず、大分汕泗会有志によるダークダックスの「銀色の道」の力強い大合唱などもあつて、あつと云う間の2時間であつた。

翌27日の観光は、上野の母校跡からスタートし、大分市美術館↓新装となつた県立美術館（OPAM）↓最後は大分駅ビルでの昼食のコースであつた。昔の面影をたどりつつバスでゆつくり駅裏等周回したが、新大分駅とその周辺の様変わりに、車中誰かが「大分も変わったなあ。立派になつたもんじゃ」と云つていた。

昼食後、「汕泗会も今回で最後か？もう1回ぐらい集まれるといいがなあ」と口々にしながら散会した。

▼出席者（敬称略）

関東地区

安部邦良（東京）、遠藤光一（横浜）、合谷種毅（千葉）、吉田和之（東京）、南文人（千葉）、綿貫功（千葉）

福岡地区

鵜池寛（北九州）、草野晋一（柳川）、田上省一（福岡）、難波幸雄（春日）、浜田吉信（福岡）その他県外

石尾雄幸（大阪）、竹下勇（宮崎）

大分地区

榎勉、河村良司、久保政義、小柳強、佐藤真、城元保昭、鈴木義治、園田忠昭、帯力剛二、茶谷勇司、時松祐吉、豊島義隆、

内藤昭治、中川光、中田耕市、二宮正和、新里裕元、野口銀平、椋野建二、村尾哲弘、山口文生、山城幸三郎、若杉昭幸
（豊島義隆 記）